

令和6年度 政務活動報告書（1）

会派又は議員名 角田 広佑

政 務 活 動 期 間	令和6年6月28日～6月29日（2日間）
政 務 活 動 先	東京都 （東京ビッグサイト、東京消防庁 都民防災教育センター）
政務活動参加者	角田 広佑（1名）
政 務 活 動 項 目	☐ 自治体・公共 Week 2024 ☐ 防災教育施設見学
政務活動項目に係る （目的・結果等の概要・所見）	別紙のとおり

令和6年7月11日

当別町議会
議長 高谷 茂 様

視察報告書

参加研修名：自治体・公共 Week 2024

参加日時：令和6年6月28日（金）10:00～16:30

研修会場：東京ビッグサイト 西展示場（東京都江東区有明3-11-1）

参加者氏名：角田 広佑 計1名

1. 概要

自治体・公共向けの6つの専門展で構成された展示会。「住みやすい街づくり」「活性」「業務効率化」につながる製品・サービスの比較検討や最新技術の情報収集を行った。

2. 内容

展示会では特に関心のあった、公共DXやガバメントクラウド、防災DXの展示を主に拝見したほか、河野太郎デジタル行政改革担当大臣の講演、自治体ライドシェアを先行的に行っている大阪府東大阪市、石川県小松市の首長らの講演を聴講した。

展示会においては、申請手続きのオンライン化や自動化、相談情報の共有システム、まつり等町内イベントのマネジメントツールなど多岐にわたるツールのブースが紹介されていた。特にAIを活用したものが多数を占めていた。特に議会での質問・答弁履歴のレファレンスツールについては、議会における一般質問をはじめとした質問書作成において、時短や効率化業務量の軽減が図れるものとして、注目したところである。また防災関連については、災害情報の瞬時共有、避難所運営におけるAIの活用や情報の一元化共有、復旧、復興のスキームにおけるAI活用など、昨今の大規模災害における被害の最小化と迅速な復旧・復興の技術やスキームを紹介していた。ただこれらは当然電源確保が必要であり、停電時の体制確保が肝要であると感じた。

河野太郎デジタル担当大臣の講演では、文書主義の弊害を取り上げ、「ひとつの国家事業を行うにも、変更にも、作業工程省略にもすべて文書交付がいる。この感覚を変えないと、デジタル推進は不可」と解説しながら、日本のデジタル推進の道しるべについて講演されていた。また自治体ライドシェアの講演においては、住民や事業者の反発等があった中で、当事者との対話の重要性を挙げ、誤解を解き、自治体の方向性を明確に示すことが、実現の要因である、と説明があり、大都市でも過疎地でも、その有用性をしっかりと可視化し説明することが必要であるとのことであった。

3. 総括

今後、全国規模での人口減少は確実に迎えるところだが、自治体職員のなり手不足も、合わせて深刻な課題である。この状況において、DX化による業務効率化は最重要課題であり、人手不足をAI等で補填することは、自治体運営の効率化を実現するものであると認識するものであった。当別町においても、業務効率化や調査作業の時短化が実現するものを提案し、実現させていきたいところである。

文責：角田 広佑

令和6年7月11日

当別町議会
議長 高谷 茂 様

視察報告書

視察日時：令和6年6月29日（土）9：00～11：00
視察場所：東京消防庁本所防災館（東京都墨田区横川4丁目6-6）
視察議員：角田 広佑 計1名

1. 概要

防災館（都民防災教育センター）は、都民の皆さんの安全な暮らしを目指し、楽しみながら地震の揺れの体験、初期消火や応急救護、火災の煙からの避難要領など、防災に関する知識や技術を学んでいただく体験施設である。今回、防災教育の必要性や、その方法を探求するため、錦糸町にある東京消防庁本所防災館の視察を行った。

2. 内容

防災館では、災害の種類ごと（火災、地震、風水害）に、その災害や避難方法、さらには応急救護方法を実際に体験し、経験することで防災意識を高めることを目的とした体感型のプログラムがある。予約制で人数制限はあるが、各ジャンル20～30名ほどの参加が可能。日本人だけではなく、インバウンドも参加しており、職員は翻訳ツールを活用しながら対応していた。日本の災害対策について、インバウンドの関心の高さがうかがえる。

特に、首都直下型地震を想定した地震災害では、震度7相当の震度体験ができるほか、発災時の身の守り方を体験しレクチャーしていた。風水害については、強風や暴風雨の体験のほか、ARゴーグルを使用した浸水状態を体感できるものがあった。洪水体験では、住宅や自動車のドアが、水圧によって開けることができなくなる状況の体験ブースがあった。また消火器の使用手法や、応急救護体験など、実際に災害に遭遇した際の対応方法を実技で体験できるブースもあった。

特に注目したのは、救急車の要請を、一問一答方式で実際に声を出して行うブースがあった。機械が反応するものだが、誤りがあると訂正するところがあり、最後は講評が示され、子どもでも楽しめる内容であった。

3. 総括

札幌市にも体験型の防災施設がある。このような施設は全国各地に所有しているが、大都市における災害対策について、その特殊性を認識するものとなった。当別町は都市部ではないが、当別特有の自然災害、とくに暴風雪における対策をしっかりと整える必要があると感じた。またいつ起こるか分からない地震災害についても、備えや発災時の対応について、啓発を進めていく必要があると改めて認識したものであった。

文責：角田 広佑

令和6年度 政務活動報告書（2）

会派又は議員名 角田 広佑

政 務 活 動 期 間	令和7年1月21日～1月23日（3日間）
政 務 活 動 先	兵庫県養父市、広島県福山市、岡山県瀬戸内市、兵庫県明石市
政務活動参加者	角田 広佑、佐藤 立（2名）
政 務 活 動 項 目	○コミュニティバスの運営について ○異年齢集団で行う教育機関の現場視察 ○子育て支援施設等公共施設等の見学
政務活動項目に係る （目的・結果等の概要・所見）	別紙のとおり

2025年3月24日

当別町議会

議長 高谷 茂 様

当別町議会議員 佐藤 立

当別町議会議員 角田 広佑

養父市・福山市・瀬戸内市・明石市視察研修報告書

以下の通り視察研修を実施しましたので、ご報告申し上げます。

行程と視察研修先

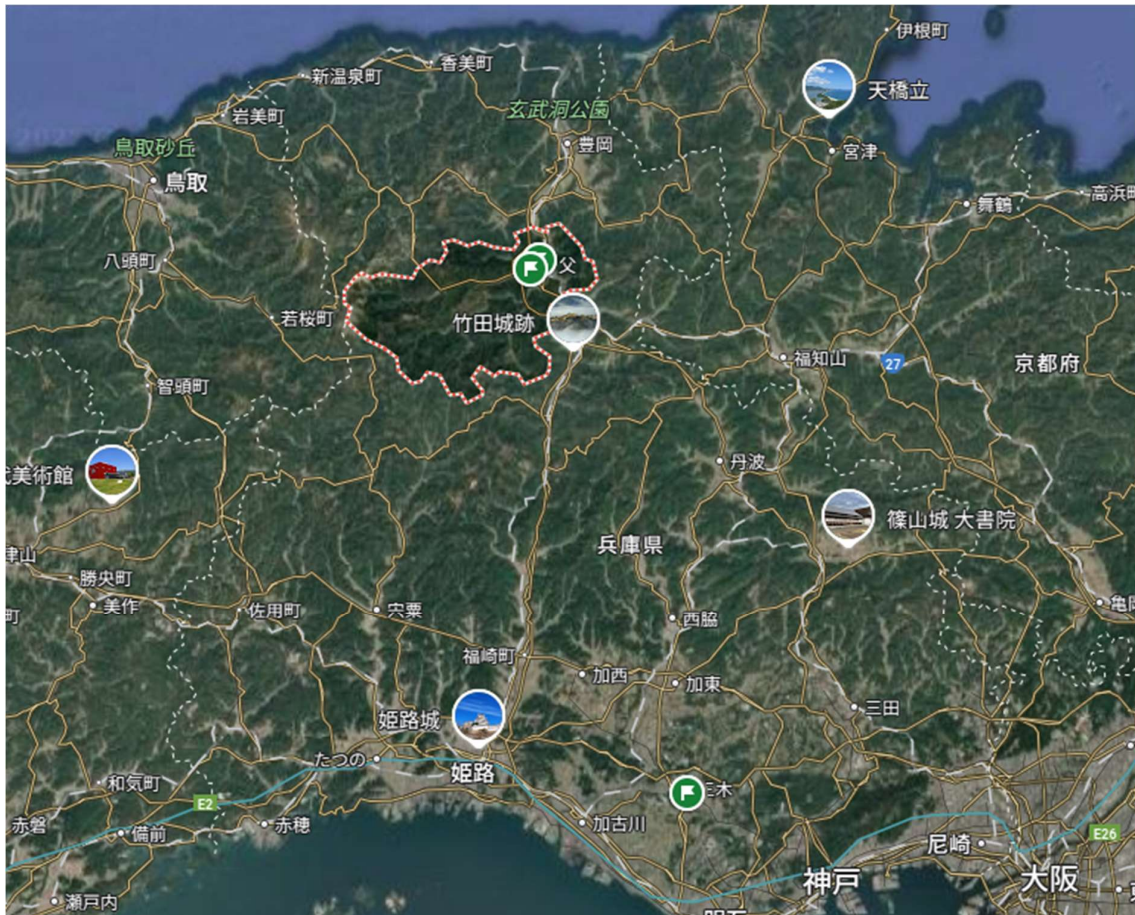
月日	内容
1月21日	新千歳空港→（航空機）→伊丹空港→（レンタカー）→養父市
	13:30～14:30 <u>養父市役所（コミュニティバスとスクールバスの一体的運行）</u>
	15:30～17:30 <u>全但バス株式会社（コミュニティバスとスクールバスの一体的運行）</u>
	<u>特定非営利活動法人但馬を結んで育つ会（意見交換）</u>
	（養父市内宿泊）
1月22日	養父市→（レンタカー）→福山市
	13:30～15:30 <u>福山市立常石ともに学園（インクルーシブ教育）</u>
	福山市→（レンタカー）→岡山市
	（岡山市内宿泊）
1月23日	岡山市→（レンタカー）→瀬戸内市
	9:30～10:30 <u>瀬戸内市役所・瀬戸内市社会福祉協議会（こどもの遊び場づくり）</u>
	瀬戸内市→（レンタカー）→明石市
	12:30～13:30

	明石市立図書館・明石市親子交流スペースハレハレ見学（こどもの遊び場づくり）
	明石市→（レンタカー）→伊丹空港→（航空機・羽田経由）→新千歳空港 ※角田議員は新神戸駅で解散

コミュニティバスとスクールバスの一体運行

養父市

養父市は兵庫県北部但馬地方に位置する、人口約2万人、面積約423平方キロメートルの市です。養父市では、市内の一部地域でコミュニティバスとスクールバスを統合して運行しています。運行に至る経緯や現状、今後の課題について養父市及び運行を担当する全但バス株式会で研修をさせていただきました。



対応者

- 江本 賢治 様（養父市まち整備部土地利用未来課長）
- 富田 雄士 様（養父市まち整備部土地利用未来課主査）

研修資料

- [養父市役所資料](#)

研修内容

1. コミュニティバス・路線バスとスクールバスのすべてを統合しているわけではない。
2. 統合した路線以外にスクールバスは相当数運行しているが、教育委員会所管なので把握はしていない。
3. デマンドは路線バスに近い位置づけ、有償運送はタクシーに近い位置づけと整理している。
4. 関宮のデマンド実証はバスからの利用者の移転はない。バス、デマンド、有償運送それぞれ利用者が異なる。重複して運行することが重要と考えている。

全但バス株式会社

対応者

- 小坂裕司様（全但バス株式会社バス事業部部長）
- 石原一貴様（全但バス株式会社バス事業部乗合事業課副課長）

研修資料

- [全但バス資料](#)

研修内容

1. 運転士不足が深刻。今年中に貸し切りバスはできなくなる見込。数年後には高速バスができなくなると思っている。
2. スクールバスの入札は、以前はすべて応じていたが、現状では入札に参加しないこともある。
3. 同社が担当している地域には、スクールバスを基盤に一般混乗で公共交通を形成している地域がある。
4. スクールバスとコミュニティバスを統合する際の課題は、学校行事で日中にバスを使いたい、スクールバスは着席が基本（学校統合時の条件）など。現在、日中の利用は別途貸切バスを手配していただいている。着席できないことについても理解を得た。
5. 登校時間を2段階（高学年と低学年で30分程度の時間差）にすることで、5台で運行していたスクールバスを2台に減らすことができた地域もある。
6. バスを効率化する時には、営業所単位で面的な削減を考える。これから白紙から交通体系を考えるなら、主要な利用者（＝スクールバス）を基軸にして、通院など利用しなければいけないニーズを重ねていくという考え方であろう。

7. デマンドバスはそれほど大きな経費削減効果はない。
8. デマンドバスを利用してもらうために、医療機関にデマンドバス利用者は優先して診察するという仕組みをつくってもらった。帰りのデマンドバスの時間に間に合うようになり、往復の利用につながった。利用することでのメリットを、用務先と協力してつくりたいと利用してくれない。
9. 関宮のデマンド（無償実験）は、利用者がヘビーユーザーになる傾向がある。運賃を安くしても利用の幅は広がらない印象。逆に高くしても、それほど利用は減らないのではないか。使わざるを得ない人が使っていると思われる。

	
JR八鹿駅前の全但バス本社	JR八鹿駅前の観光マップ

特定非営利活動法人但馬を結んで育つ会

対応者

- 千葉 義幸 様（特定非営利活動法人但馬を結んで育つ会代表理事／ちば内科・脳神経内科クリニック院長／養父市医療福祉アドバイザー）
- 糸井 恒輔 様（特定非営利活動法人但馬を結んで育つ会事務局長）

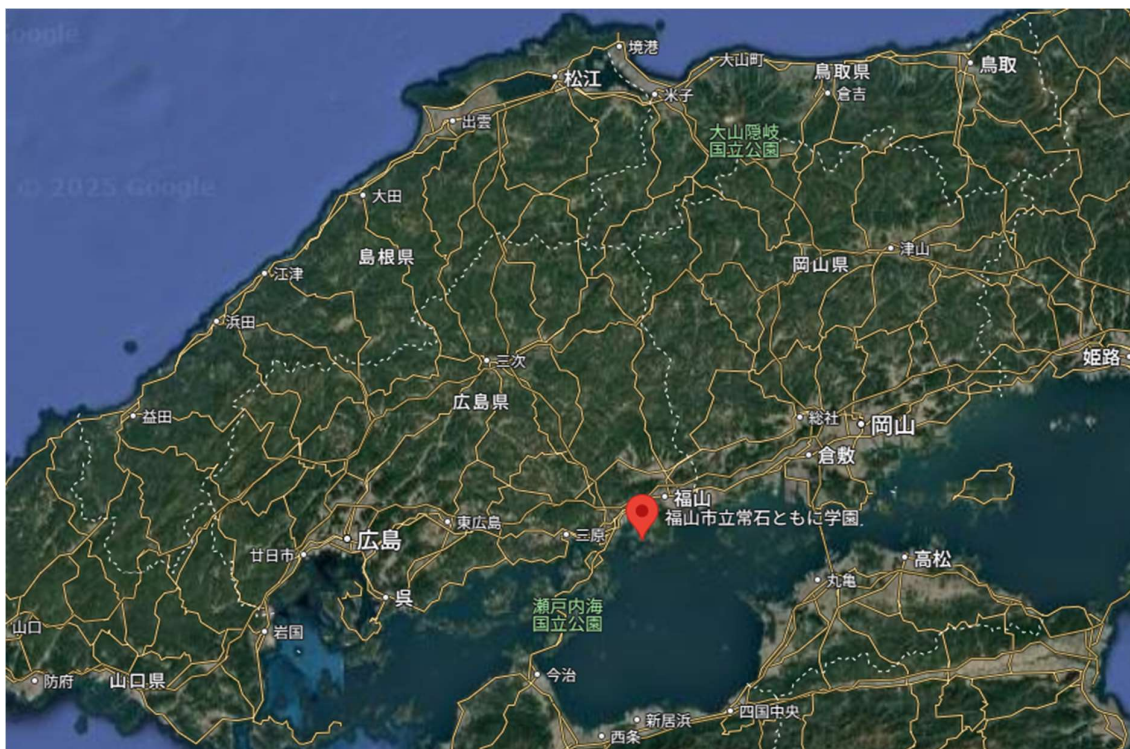
研修内容

1. デマンドバスの予約様に利用者にタブレットを配布する。スマートウォッチを利用すれば生体情報も取得でき、町民の健康管理にも役立つ

インクルーシブ教育

福山市立常石ともに学園

常石ともに学園は、福山市立の小学校でイエナプランを採り入れたインクルーシブ教育を実践しています。



対応者

- 甲斐 真由子 様（福山市教育委員会事務局学校教育部学事課企画研修担当次長 兼 管理部学校再編推進室調整員）
- 甲斐 和子 様（福山市立常石ともに学園校長）

研修資料

- [常石ともに学園資料](#)

研修内容

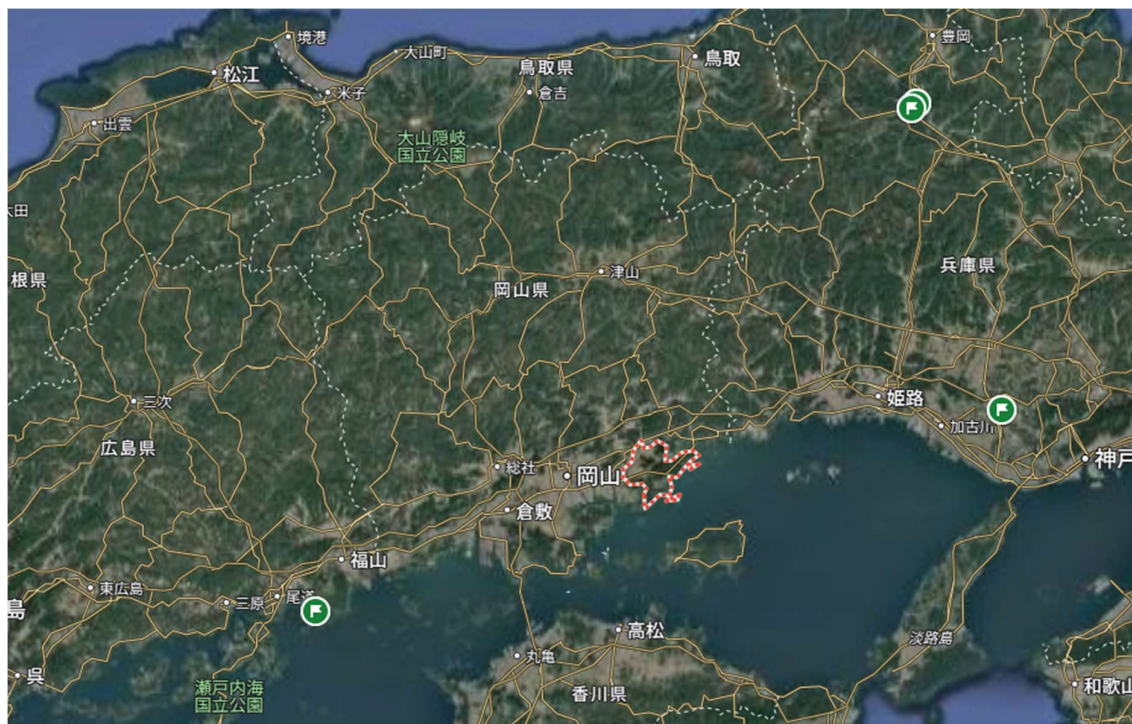
1. こどもに計画を建てさせるのは、1週間単位。そのなかでやるべき項目を教師が提示してこどもに組み立てさせる。
2. 基本は教科書ベース。新たな教材をつくることはしていない（計算プリントなどはつくっている）
3. 学習指導要領の到達目標を達成することが目標。
4. イエナプランは様々な教育手法の1つとして採用。市内で他に拡大するつもりはない。こどもたちに複数の選択肢があることが重要。
5. イエナプランが合わないこどももいる。
6. 教員の負担は大きいが、楽しんで取り組んでくれている。
7. イエナプランの最大のポイントは異学年が1つの教室にいること。子ども同士の教えあいも発生する。教員も、学年の枠を超えて考えるので、「〇年生だから」という固定観念を外しやすい

8. イエナプランを導入したことの良かった点は、とことんできること。先生も枠を外して考えやすい
9. 旧常石小学校は統廃合対象校。地元（造船会社を中心に）からイエナプランの提案があった。保護者は当初は懸念もあり、何度も説明会をした。開校後は、子どもたちの様子をみて理解が広がった。
10. 改修工事の財源は、一部が地元からの寄付。金額は非公開。
11. イエナプラン開始後に順番に改修したので、子どもたちの様子を見ながらプランの調整ができた。
12. 低学年、高学年それぞれ担当の教員がチームで動いている。得意科目を教えるなど。
13. 教室に2名いると、取り出し授業など柔軟にできる。現在は常に2名いるわけではない。
14. 校長は6年目、オランダに研修に行っている。
15. イエナプランの登録にはお金がかかっている。公立校なので教員の異動があるため。登録要件は緩和してもらっている。

	
教育委員会による概要説明	図書室

こどもの遊び場づくり

瀬戸内市・瀬戸内市社会福祉協議会



対応者

瀬戸内市

- 土田 恵子 様（瀬戸内市こども・健康部部長）
- 浮田 行裕 様（瀬戸内市こども・健康部こども家庭課課長）
- 松田 秀太郎 様（こども・健康部 こども家庭課参事・プレーリーダー こども政策/こどもひろば・こどもパーク整備）
- 岡 育利 様（瀬戸内市議会事務局長）
- 成本 崇 様（瀬戸内市議会議員）

社会福祉法人瀬戸内市社会福祉協議会

- 皆木 賢治 様（社会福祉法人瀬戸内市社会福祉協議会統括主幹）
- 田淵 愛子 様（社会福祉法人瀬戸内市社会福祉協議会こどもひろばコーディネーター）
- 寺尾 結衣 様（社会福祉法人瀬戸内市社会福祉協議会こどもひろばコーディネーター）

研修内容

1. ドイツを手本におもちゃを積んだ車を導入した
2. 黄色は新幹線のドクターイエローを真似した。
3. 導入当初に民間から関与した方が、いま担当参事を務めている。
4. 社会福祉協議会に業務委託している。委託費は950万円/年。車はリースで2台で3万強/月。ほぼ人件費。スタッフ6名。
5. 最初はボーネルンドのおもちゃだったが、自作のおもちゃに入れ替わっていった。
6. いろいろな遊び方ができるボールや台をのぞいて今はボーネルンドは使っていない。
7. 重いものはスタッフが嫌がるのでやめた（木のキッチン自作の段ボールのキッチンへ）
8. 最初は、ボーネルンドという名前で市民の反応が良かった。ブランド名の効果はあったと思う。
9. 打ち合わせの時も黄色い車で行く。目立つので、期待感を持たせられる。
10. 公園、山、保育園などあちこちでやる。老人会からも呼ばれている。
11. 公園の整備をするより、今の事業の方が安い。
12. 月に10回程度出かける。最高は月に15回くらい。
13. 行かないときは、打ち合わせやおもちゃづくり、準備など。
14. 市民グループから呼ばればそこにも行く。
15. 車は、子どもたちが落書きできるというアイデアもあったが、採用しなかった。目立つ色で、市のマスコットもつけて、市としてやっているということをアピールしている。
16. 目玉などのマークはマグネットで外せるもので、子どもたちが遊んでいる。
17. 出かける先によって積むおもちゃは入れ替える。
18. 1台で行く時も、2台で行く時もある
19. 多くの公園は地元管理になっているので、地元の要望があれば使える。

瀬戸内立市図書館

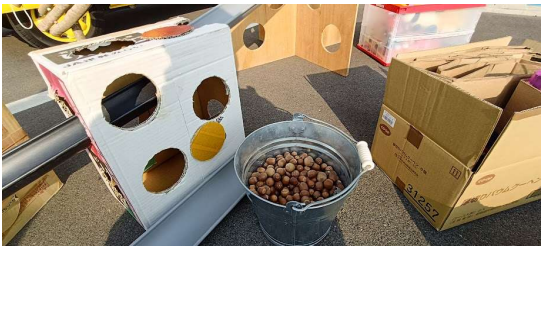
1. こどもコーナーのとなりに雑誌、子育て本などを配置→親が読みやすいもの



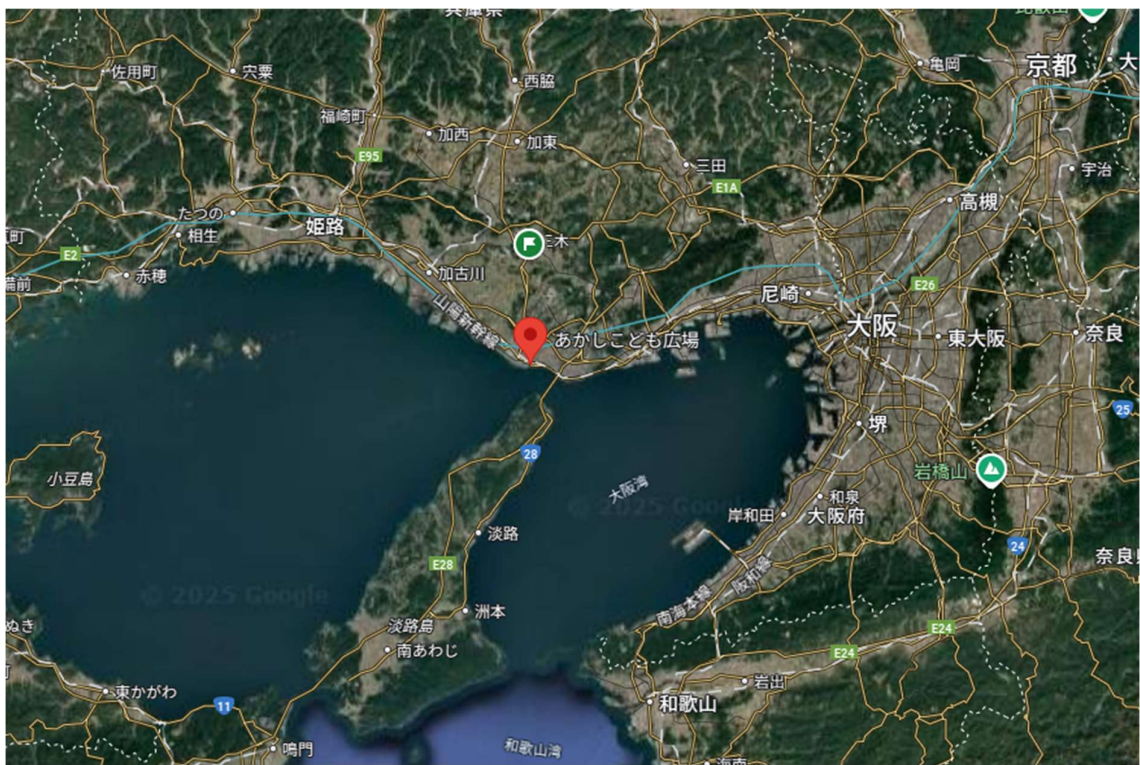
専用のプレイカー



遊び場の説明

	
プレイカーに積載しているおもちゃ	スタッフのてづくりおもちゃ

明石市立図書館・明石市親子交流スペースハレハレ



対応者

見学のみのため対応なし

見学内容

1. いずれの施設も明石駅に直結している。
2. 中高生向けのダンスや音楽スタジオもある。

3. 明石駅周辺はもともと繁華街だが、駅と商店街の間に四車線道路（国道2号線）があり相互の人流は少ない。子育て支援施設を無料にすることで、来訪した家族連れが周辺の商店街でお金を使うというロジックがあるが、駅ビル内で人流が完結しているように見え、周辺での消費効果は慎重に見極める必要があるようだ。
4. 充実した施設による移住の効果はありそうだ。

	
施設が入居する明石駅前のビル	ハレハレ入口
	
子育て支援センター	中高生向けユーススペース